

出会い ふれあい 助け合い

サロンあべの

VOL.184

花と緑と自然の情報センター



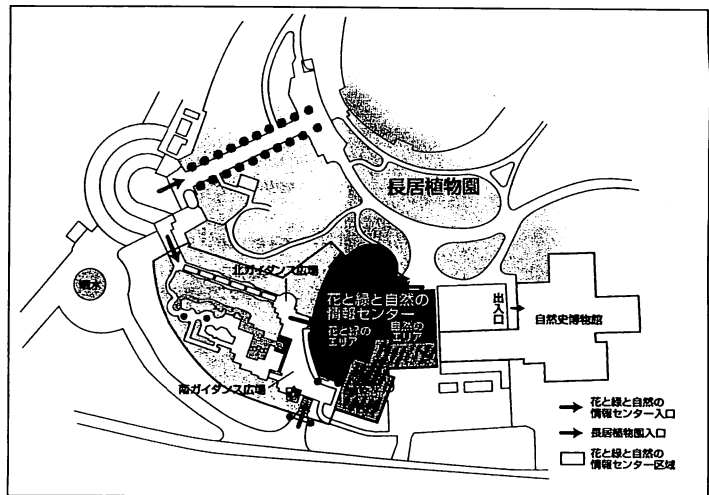
△サロン・あべのV9月の出会い

9月15日(土)△サロン・あべのV9月の出会いは、長居公園(大阪市東住吉区長居公園1-23)の東南にある市立植物園入口右手横に今年4月に開設された「花と緑と自然の情報センター」の見学会です。

まず、長居障害者スポーツセンター1階エレベーター前に12時30分に集合。そして午後1時に参加者がそろったところで見学先へと向かいました。行くまでの途中、少し小雨が降っていましたが、なんとかたどりつきました。

「花と緑と自然の情報センター」は、その名の通り、花や緑のまちづくりや地域の自然について理解を深めることができる情報センターです。建物の中には、花と緑のエリアと自然のエリアに分かれています。

まず、1階の自然のエリアを自由に見学しました。「大阪の自然史」では、都市化の進んだ大阪に残る自然(丘陵・山地・水辺など)に生きる生き物たちや岩石、地層などが展示されています。次に、花と緑の



花と緑と自然の情報センター付近

エリアでは、スタディゾーンがあり図書コーナーには自然に関する雑誌や専門書、図鑑などが揃っています。また、専門相談員が答えるコーナーもあります。

1階を一周り見学した後、エレベーターで(車いすは1台しか乗れません)2階へ上がりました。2階は花と緑を楽しく学ぶイベントゾーンになっており、アトリウム

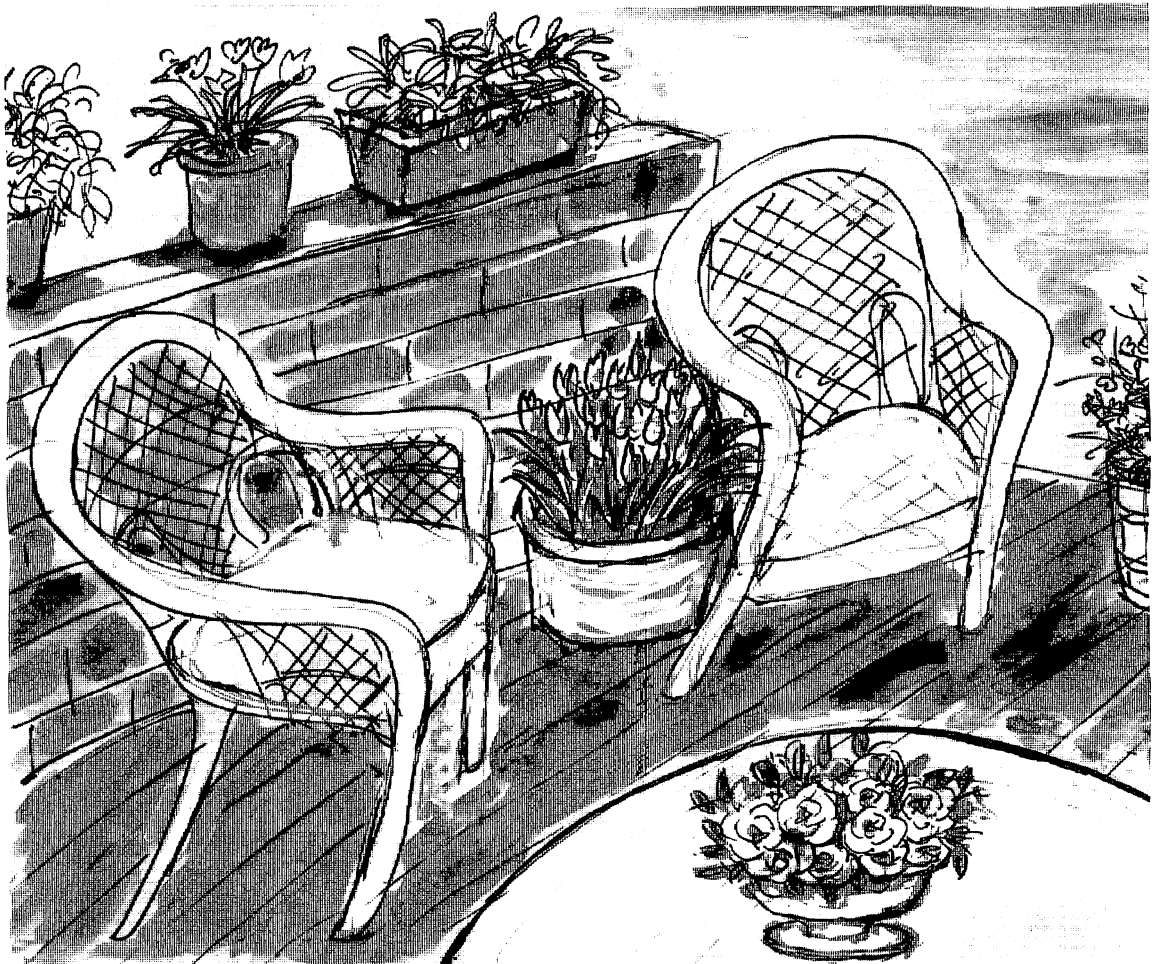
のコーナーで園芸に関する企画展があり、参考になる展示がなされています。また、その続きにはルーファガーデンがあり、人工地盤(屋上など)の緑化技術の見本庭園が提案されています。色とりどりの花がきれいに培われています。

また、ギャラリーでは、この日、押し花の絵画やタペストリーの作品展示と体験コーナーが設けられていました。絵はがきやキーホルダーに押し花を貼りつけて作品作りにチャレンジする人もいました。

次に自然エリアでは、ネイチャーホール内での特別展「レッドデータ生物」―失われゆく自然と生きもの―が開催されました。昔は身近に見られた生き物たちが、今ではとても少なくなってきた現在の現状について展示解説がされていました。

1階と2階の花と緑のエリア・自然のエリアをゆつくりと見学した後、1階の憩いのゾーンの喫茶コーナーで休憩をしました。各自好みの飲み物などを取りながら参加者の感想を聞きました。

「のんびり、ゆったりできた」
「久しぶりに参加した」



「いつも、サロン紙の朗読テープを聴かせていただいています」と朗読グループの方との出会いがあったり…。

見学時間中、激しく雨が降っていました。濡れが、帰りはほとんど止んでいました。濡れることもなく無事に帰ることができました。

「花と緑と自然の情報センター」は、都会の真ん中で「癒しの空間」を提案されている場所ではないでしょうか。そして、いろいろと自然の大切さをあらためて実感した人サロン・あべのV9月の出会いでした。

参加者13名(山村貴司)

金木犀

黄橙色の小花を、つややかな緑の葉の腋に、びっしり咲かせる金木犀の芳香は、遠くからでもそれと知れる。幹がざらざらして犀の皮に似ているので木犀の名が。なにがなんでも「かるた」です。

解説付き かるた冊子 一五〇円

さきみみすきん

花見るところ

最近の花は、品種改良されたものが多く、従来の花の姿や形をしていても馴染みのない名前が多くなっています。聞いた時はちゃんと覚えているつもりでも、次に見た時、あれ？ 何だっ
たかしらと考えます。今、流行りのガーデニングによく使われている花の多くもまた、聞いてもすぐに右から左に通り返してしまふのが多いのですが、先月は懐かしい花をみました。ホウセンカです。子供の頃には、どこにでも雑草のように咲いていた草花でしたが、最近はお目にかかることがなかったのです。その花を見た時には、本当に嬉しいでした。子供の頃の何でもない風景がいろいろと蘇ってきました。

阿倍野区在宅サービスセンターの外周りを囲む細長い花壇でした。一人のボランティアさんが、丹精込めてお世話をされて季節の花を見せてくれています。自宅で種から発芽させ、苗を育て、その花の季節に合わせて植え替えをしているそうです。その花壇にはコスモスの苗もホウセンカの間には植えられており、秋風が待たれていました。この花壇が九月十五日(土)のNHKテレビ「ガーデニングコンテスト」に十三グループの一つとしてノミネートされていました。育てる苦勞に思いは馳せにくいですが、花は見る者に安らぎをストレートに与えてくれるものだと思います。

(け)

障害者の雇用と 就労を考える

5

経済・社会の時代的背景

-1-

茅原聖治

前二回で述べたように、障害者雇用・就労についての考え方が変化してきている一方で、この十年くらいの間に経済社会にも大きな変化が見られ、それは障害者雇用・就労に少なからずインパクトを与えていると考えられる。以下に列挙して説明しよう。

第一に、産業構造の変化である。一九六十年代から七十年半ばにかけての高度経済成長期は製造業・建設業を中心とした第二次産業の繁栄期であった。この時期は身体的なかなり苛酷な労働が主であったため、障害者がこれらの職に就くということが困難、もしくは不可能と考えられていた。そ

れゆえ、好景気に基づく税収の増加は、障害者・高齢者の収容施設建設に結びついた。しかし、一九八〇年代以降、他の先進国と同様に、日本も第二次産業から第三次産業へと産業構造のシフトが進行した。第三次産業はサービス業を中心とした、テレビや自動車などの財を生産するのではなく、飲食や娯楽、運輸などの形のないサービスを生産する産業である。これらの仕事の中には障害者が十分に働くことのできるものが多く存在することから、障害者雇用・就労のすそ野を拡大する結果となった。

第二に、情報化産業の台頭である。一九九〇年代半ばから現在にかけて、いわゆるIT (Information Technology) 産業が急速に成長した。この立役者となったのがパーソナル・コンピュータ (以下PC) とインターネットの普及である。家庭や企業にあるPCがインターネットにより有機的なネットワークを構築して、いわゆるサイバー社会が形成された。このサイバー社会は、老若男女、障害のあるなしの全く関係のない社会である。すなわち、物理的なさまざまな障壁のため、外界に働きかけることが

できない障害者であっても、サイバー社会の一員となって社会参加をすることができるということを示唆している。つまり、サイバー社会は、物理的な制約のない空間の中で、単なる一個人として障害者が活躍できる可能性を秘めている。

近年、このサイバー空間を利用した「在宅勤務・在宅雇用」が障害者雇用・就労の一形態として認識されるようになってきている。米国では、国土が広いために、健常者の就労形態として、在宅勤務が定着しているという。日本のように、障害者が交通機関や街路を利用しにくい現状においては、仕事場への通勤それ自身が困難である。その点、在宅勤務は、例えば、障害者は自宅にあるPCでデータを加工し、それをインターネットによって遠隔地にある企業の事務所に転送するというのが一般的な形で、障害者は自宅にいながらにして仕事が遂行できるのである。データ入力や整理などの単純なものから、ホームページ作成やデザイン、CADによる設計、そしてプログラミングのような独創的なものまで、幅広く在宅勤務は適用できるのである。

おしらせ

△サロン・あべの▽11月の出会い

日時 11月17日(土) 午後1時〜4時
場所 育徳コミュニティセンター2階

スロープ・車いすトイレ有り

〔阿倍野区阪南町5-15-28〕

内容 2まちを変える路面電車・LRT

〔LRTライト・レール・ラジック(踏切)〕

パネラー 磯崎章一氏

(大阪にLRTを走らせる会)



☆△サロン・あべの▽12月の予定

月 日 12月1日(土)

内容 11年忘れ昼食会

*場所・会費などは未定ですが、皆様のご予定に入れていただきたく、お知らせ

させていただきます。詳しい内容は、

11月発行のサロン紙を読んでください。

お申し込みとお問い合わせ先

TEL 06-6691-1028 (富田)

朗読テープのご案内

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第183号の録音テープが出来ました。

朗読テープ文庫

(a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第183号までそろっています。

(b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」

(c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)「ラジオたんぱ」放送(サロン・あべの)平成七年五月の出会い」放送分(30分)

(e) エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランティア活動の周辺(岡本栄一著)糸でんわ音訳

(f) 「キミたちだけが困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著)糸でんわ音訳

(g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著)糸でんわ音訳

(h) 「タやけ空のオニヤンマ」(牧口一二著)糸でんわ音訳

(i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著)糸でんわ音訳

(j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著)糸でんわ音訳

(k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修)大阪市立天王寺図書館制作

(l) 「知らされない愛について」(岡知史著)ほけつと音訳

(m) 「愛ひとり旅」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳

(n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳

(o) 「もうちよつと知つとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著)糸でんわ音訳

(p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(06-6691-1028)まで。

感謝

カンパ、切手、冊子等、またサロングッズのお買い上げをありがとうございました。

石原栄(大阪義肢装具センター)、

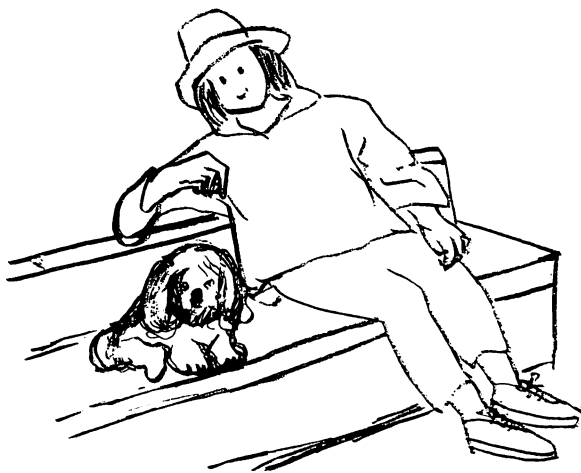
伊佐悦子、奥田久子、奥田真祐美

心の灯、小嶺佐栄子、田中美佐保、

田村昌子、中谷邦子、難波りんご、

日本聴導犬協会、村木博子、森下公子、

山本卯吉、その他の方々、



★ 仕事を選ぶ二つの基準

仕事は、お金になる仕事と、お金にならない仕事に分けることができるだろうが、ある程度、満足した生活ができるのなら、これからは、お金にならない仕事をしようと思いはじめた。

また仕事を、それによって自分が目立つようにはなるが、実は虚しいものと、自分が目立つようにはならないが、意味深いものに分けることができるなら、これからは自分が目立たないことをしようと思いはじめた。

この二つの選択は何年か前から心に抱いてきたことなのだが、ますます強く願うようになった。お金になる仕事や、自分が目立つようになる仕事は、濃い味が私の味覚を失わせるように、私が本当に向かいたところへ私を導いてくれなくなるような気がするからだ。

たとえば私は教員だが、授業の準備などは、いくら時間をかけ、労力をかけても、お金にはならない。夜明け近くまで

起きていて準備をしても、あるいは通勤電車のなかで数十分間、メモをとるだけの準備でも、受け取る金銭的報酬は同じである。

また授業の内容は、それを受けた学生たちにしかわからないから、広く社会に知られることもない。

お金にならない仕事をしよう、自分が目立たない仕事をしようという決意をしなければ、とても十分な授業の準備などできるはずがないのである。

授業の準備が大事だということは以前からわかっていた。しかし、それがいまままで充分にできなかったのは、他にもいろいろな仕事を私がかかえていたからだ。どれも大切な仕事のように思えて、すべてをこなそうと努力してきた。だが、すべてはできなかつた。いつも何かができずに残っていた。

私に必要なことは仕事を減らすことだった。依頼を断ることだった。しかし、



何を断り、何を引き受けるべきかがわからなかつた。どの依頼も感謝して受けなければならぬと感じていた。

いいかえれば判断の基準が見つからなかったところに、ふと二つの基準が思い浮かんだ。それは冒頭に書いたように、お金になる仕事と、お金にならない仕事があれば、お金にならない仕事を選ぶことである。

その理由は私自身の欲望、特に金銭欲と名誉欲への警戒だ。人間の欲は恐ろしく強いものだと思う。自分の欲を自分の意志の力で自由にできる人が、世の中にどれだけいるだろうか。欲は私のものであっても、満たしつづければ、やがて私を乗り越え、私を飲み込むほど膨れ上がる。その結果、本来は私の理想を実現するための仕事であっても、欲は私から仕事をとり上げ、その道具にしてしまう。

欲が自分のなかの滅ぼせない何かであるのなら、それを甘やかすことは禁物だ。だから私は、お金にならないで、自分を目立たせない仕事をこれからは選び続けたいと思う。

(知)

かんなづき

神無月(かんなづき)とは陰暦十月のことである。この月は日本各地の神々がごとごとく出雲の国へ旅立たれるため、神々が留守であるというので神無月という。逆に出雲の国では神有月といい、大変な賑わいとなる。ちなみに俳句の世界では神無月は十一月を指す。

ところで神無月(十月)はこよみの上では晩秋に入るが、実際は仲秋、いわゆる秋本番で空はどこまでも青く、どここの山々も紅葉で彩られ、吹く風はさわやかで大気も澄み切っている。そのためこのシーズンは何をするにも最適なので芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、ファッションの秋と言われる。なかでもお米をはじめ、いろんな食物

晴れのち晴れ

③7

稲垣 恵雄

が実る時期でもあるので食欲の秋とも言い、見逃すわけにはいかない。私は何を食べてもおいしいので、つい食べすぎて肥えてくる。いいや、人間だけでなく「馬肥ゆる秋」という諺があるように馬だって肥えるのである。

ものの本によると、この「馬肥ゆる秋」とは「漢書」の匈奴伝に「匈奴は秋に至って馬肥え勁し」とあるのによる。要するに分かりやすく言えば「高天肥馬の季節をいい、秋になると馬も肥える」ということである。

はじめにも書いたように神無月は四季を通じてもつとも過ぎしやすい時候である。でも十月八日は寒露、二十三日は霜降にあたり、これからは日増しに寒さが加わってくるのでお互いに風邪をひかないように気をつけたいものである。

植物あれこれ

第三十三回

山口康二郎

地球温暖化

同時多発テロが落とした影は大きく暗いといわれています。その影は芸術やスポーツにも及んで、マリナーズの優勝も祈りで終わった。モロッコで開催予定の地球温暖化防止条約会議もそのとばっちりです、開催が危ぶまれているといわれています。この会議は、日本で合意した「京都議定書」を二〇〇二年に発効させるための重要な会議です。

この夏、三七度以上の気温を四回も記録した大阪に住む私たちにとって、地球温暖化はゲリラと同様重大なことです。国境を越えて世界を覆い、地球の環境と人類の生存を脅かすからです。

八月二十九日、内閣府から発表された「地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査」によると、オゾン層破壊など環境問題に関心があると答えた人は、八二パー

セントと強く、国として取り組むべき対策として、

- ① 森林保護・緑化対策の推進
 - ② 太陽光・風力発電などエネルギーの推進
 - ③ クリーンエネルギー自動車等の普及促進
- が上位にランクされました。

温暖化防止のための個人の生活スタイルについては、

- ① ゴミの減量化やリサイクル
 - ② 冷暖房を控える
 - ③ 電気機器を小まめに消す
 - ④ 車の利用を控える
- などでした。

森林・緑化対策を各国が国家対策として行うことは最も大切なことは論を待たない。私は、個人生活の上でも緑化対策をもっともっとしていくべきではないかといった。

東京都の調査では、ビルの屋上の四九パーセントを緑化すれば、気温は三度下がる

という結果ができました。緑化は、地球温暖化を防ぐための唯一つの積極策であるといえるのです。コンクリートジャングルと憂うだけでなく、あらゆる空間を利用して緑を増やそうではありませんか。

土がなくても大きな目の容器があれば木は育ちます。緑は温暖化を防ぎながら心も癒してくれれます。

緑の全くないアフガンの光景を見て、ますますその意を強くしている昨今です。



美智子のこんな話

岸田美智子

「障害者はどう生きてきたか」
―戦前戦後障害者運動史―

過ごしやすい季節になってきました。そこで、秋の夜長に読んでいただきたい本があります。私たち障害者が、これまでの歴史の中で何を考え、何を訴えてきたか。そして、社会をどう変えてきたか、などの歴史を幅広くまとめた本がこの「障害者はどう生きてきたか」―戦前戦後障害者運動史―です。著者杉本先生と私は、十年以上のお付き合いがあります。この先生の感覚は専門家らしくない視点で、いつも障害当事者から見たとらえ方が新鮮です。私たちが歩んできた道程を振り返り、これからの混迷した時代を生き抜く力を付けてゆきたいものです。

読まれた方の感想などを、ぜひお聞かせください。

○連絡先

自立生活センター・MY・DO(まいど)

担当 下村・益満しもむら ますみつ

〒五五八-0002

大阪市住吉区长居西二-九-十二

キミハウス一階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3110

E-mail

c1-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

社会福祉の「専門家」たちの歴史観を根底から問い直し、二十一世紀のインクルージョン社会に向けての展望を探る――

障害者はどう生きてきたか ―戦前戦後障害者運動史―

杉本章 著

第一章：戦前戦中の障害者 第二章：それは患者運動から始まった 第三章：戦後社会福祉体制の確立期 第四章：理念なき施策の拡充 第五章：高度経済成長の破綻と「青い芝の会」の衝撃 第六章：立ち上がる障害当事者 第七章：国際障害者年の取り組み 第八章：生きる場・作業所と自立生活運動の展開 第九章：パラダイム転換への胎動 第十章：知的障害者施設障害者のネットワーク 第十一章：扉よ開け―精神障害者の苦闘 第十二章：「分権」「参画」「自治」がキーワード

○A5版222頁 ○定価3000円＋税 ○ノーマライゼーションプラニング ☎533-0033 大阪市東淀川区東中島1-21-2 1107 ☎06-6324-1133 FAX 06-6320-6068 Eメール TEL00217@NET.NE.JP 郵便振替 00600-2-699996

文化祭大成功

柴本実華

ボランティア同好会の壁新聞第二号、「聴導犬について」(次頁)。文化祭前日の夜にやっとできた。まずは、聴導犬とはどのような犬かを説明し、アメリカと日本を比較。そして、みかんちゃんのユーズーさん・岸本さんに質問したことをまとめた。

そして、文化祭。私達のチャリティーバザーに、沢山の方が来てくれた。完売とまではいかなかったが、なかなかの売れゆき。壁新聞を全て読んでくださった方は少ないが、ちよつとの間、眺めていた方は、まあまあいた。「聴導犬とはどんな犬か」ということは、わかってくれたカナ?

それから、募金活動。私は琴部の演奏があったので、浴衣を着たまま、犬の帽子をかぶって、叫んでいた。

「聴導犬に、募金お願いしまーす」
「訓練費用がたりませーん」

「国からの助成金はありませーん」
などと、いろんなことを叫んでいた。

そして、沢山の方が募金してくださった。余った金券を募金していただけたら、と思っていたのだが、わざわざ金券を買って募金してくださる方が沢山いた。本当は、現金をもらってはいけないのだが、百円玉をにぎってもってきてくれた、小学三年生くらいの女の子には、ダメとは言えなかった。後半から、友達も募金活動に加わってくれて一緒に頑張った。

結果、バザーの売り上げ、募金、合わせて二二、一六〇円集まった。正直、こんなに集まるとは思っていなかった……。もちろん、ボランティア同好会のメンバーは、大喜び。この文化祭まで、皆、よく頑張った。成功して、本当に良かったー。



ボランティアの芽

NO. 2

○聴導犬とは

皆さんは、聴導犬を知っていますか？ 耳の不自由な方に目覚まし時計の音、車のクラクションなど、様々な音を前足でタッチして教えてくれる犬のことです。彼らは、「あの音を知らせたら誉めてもらえるんだ」そんなゲーム感覚で仕事をしています。だから、音を知らせる以外は、普通の飼い犬と同じように遊んだりしているのです。聴導犬は「音に敏感に反応する」などの適正があれば、犬種にこだわらないので、保健所の動物保護センターや里親募集をしている民間の団体からもらって育てられます。聴導犬を育てることは、捨て犬救済にもなるのです。そして、約6か月の訓練を行います。吠え癖が治らないなどの理由で脱落してしまう犬もいます。そういうコは、里親募集をし、普通の飼い犬として引き取られます。

○アメリカ

1975年以来、年間約300頭以上の聴導犬が育てられ、無償で渡されています。オレンジ色の首輪とリードを目印に、公共機関など、自由に利用できます。これは州法で保護されています。聴導犬を育てる団体は20以上あり、国からの助成、寄付でまかなわれています。

○日本

日本で誕生した聴導犬は、わずか20頭ほど。電車に乗る時などは、事前にテストを受け、それに合格し、初めて乗車でき、そうでなければペット扱いになってしまいます。育成の団体は、6団体ありますが、統一されておらず、育て方は、アメリカ式とイギリス式に分かれています。そして、費用はほとんどが寄付！ 国からの助成はありません。だから訓練費用の約100万円は、ユーザー側の個人負担となるのです。

○聴導犬 みかんちゃん

みかんちゃん(雑種・メス)のユーザーさん、岸本さんにインタビューしました。新聞やテレビで紹介され、知っている方もいると思います。

Q1. 一番助かることは？

A. 銀行や病院に行った時、順番が来たら、ベルを鳴らしてもらい、それにみかんちゃんが反応し、教えてくれます。

Q2. 「聴導犬」としての役割でなく、みかんちゃんが来たことで何か変わりましたか？

A. とにかく、安心して暮らせるようになりました。しつこいセールスの人などが来たら、吠えて、おいかえしてくれ「良い人」「悪い人」の判断をまかせています。

Q3. JR西日本の乗車テストに合格しましたが、どんなテストでしたか？ また、このような日本の制度をどう思われますか？

A. みかんちゃんの口元に食べ物をもっていったり、大きな音をたてて荷物を近くに置いたり、平静を保てるか、というものです。

聴導犬はあまり知られていません。もっと普及すれば、こういう制度は改正されると思います。

Q4. 皆に、気をつけてほしいことはありますか？

A. 聴導犬に出会ったら、足を踏まないように注意して下さい。それと、煙草の火が当たってしまわないように。そして、故意にけったりするようなことは絶対にしないで下さい。

ありがとうございました。



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川 11月の出会い」

日時:11月18日(日)午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容:カラオケ仲間に入って楽しく遊ぼう
~カラオケを歌う機会が多くなるシーズン、一緒に
歌いませんか~

パネラー:荒川美智徳氏(淀川在住 カラオケならおまかせ)

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:kubota53@mbxinet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」11月の出会い

日時:11月24日(土)午後1時30分~午後4時

場所:にこにこセンター(大阪市平野区平野東2-1-30)

内容:未定

会費:100円

問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西☎06-6795-2200

■「サロン・にし」11月の出会い

日時:11月10日(土)午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西城北堀江4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:大人も、子ども、みんな集まれ! 車いす乗車体験&
介助体験 入門編 ~初心者大歓迎~

講師:自立生活センター・なごろ西のメンバー

会費:なし

問い合わせ先:宮脇☎06-6537-0241

■「サロン・たみ」11月の出会い

日時:11月24日(土)午後2時~3時

場所:伸幸苑(伊丹市寺本6-150)

内容:ポストカード(絵を描く)作り

会費:なし

問い合わせ先:砂脇☎0727-84-0057(午後7時以降)

■「ウイズ東淀川」11月の出会い

日時:11月11日(日)午後1時30分~4時

場所:東淀川区民会館4階会議室

大阪市東淀川区東淀路1-4-53

☎06-6379-0700

内容:リウマチ・難病者と共に生きる希望の21世紀

パネラー:秦 栄子氏

(リウマチ・難病者出作業所アークショップ99)

会費:なし

問い合わせ先:鈴木昭二

☎06-6340-3082

FAX 06-6340-3012

編集後記
FROM EDITOR

9月23日、阿倍野高校の文化祭に行こうと、楽しみにして
いた。柴本さんたちボランティア同好会のみんなが一生懸
命作った新聞を見たかった。ところが間の悪いことに急な
用で行けなくなった。だからといって今回ばかりは「それじゃ、また次の機会に」とはいか
ない。残念なことをした。「文化祭大成功」の原稿をもらって、一層そう思う。(石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.184 [H.13.10.20.発行] 定価¥100.

代表; 山村貴司☎546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071

連絡先; 富田慶子☎545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028

表題; 井上憲一・筆 文中イラスト; 石田美禰子

郵便振替口座; サロン・あべの 00950-9-26941

印刷; セルフ社☎546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDE&2F TEL06-6719-8212